

JCF ジャパンシリーズ XCO 第 5 戦白山一里野大会レースレポート

arc スキーチーム/MERIDA 恩田祐一

日時 2013 年 10 月 13 日 (日)

会場 石川県白山一里野スキー場

天候 晴れ

結果 13 位 (出走 66 名)

今シーズンの J シリーズ最終戦が石川県白山市一里野で行われた。富士見秋が台風の影響で中止だったので、レースは霰石以来となった。富士見から約 1 ヶ月、間があったが、その間にスキーの合宿でイタリアに 3 週間行ってきた。滞在標高 2700m、トレーニング標高 3300m での合宿だったので、帰国後 1 週間でどこまで疲労が回復しているかがポイントだった。

レース 2 日前に現地入り。すぐにコースの試走を行おうと思ったが、この日はコースクローズだった為、ロード練に切り替えた。1 時間ほど走って終わろうと思ったが、1 ヶ月ぶりにバイクに乗ったので、なかなかフィーリングが良くなり、さらに 30 分走り、だいぶフィーリングも良くなったのでここで終了。高所疲れは特に無さそうだが、1 ヶ月バイクから離れていた事からくる、感覚のずれが少し心配ではあった。

レース前日は、雨が激しく降ったり止んだり、安定しない天候だったが、コース試走に行く前にメカニックとタイヤ等の打ち合わせをし、試走を行った。初めて走るコースだったので、1 周目はゆっくりとコースの確認をしながら走ったが、登り基調のパワーコースである事はすぐにわかった。下りはそれほどテクニカルではないが、シングルの林間区間は、思っている以上にタイム差が出る場所だともわかった。その後、斉藤と一緒に試走を行い、ラインの確認や短いインターバルで心肺と筋肉に刺激を入れて、試走を終えた。

レース当日は朝から晴天に恵まれた。朝食前に 20 分ランニングを行ったが、調子は悪くなく、自分自身に期待がもてる日になりそうだと思えた。

レースタイヤは試走と同じく IRC タイヤの MYTHOS、ケミカル類は HOLMENKOL。この二つに関しては不安要素が全く無く、信頼しかない。HOLMENKOL スタッフも当日会場に駆けつけてくれ、最終調整をしてくれた。レース 1 時間半前に会場入りし、準備をすずめていった。

ローラーでアップを入念に行い、筋肉、心肺にしっかりと刺激も入れた。体のフィーリングは非常に良い。

今回は48番コール。スタートで前に出る事は難しそうだが、登りが始まれば一気に抜けると考え、スタートを待った。13時30分、定刻通りスタートが切られ、7周目で争われるレースがスタート。今回はペダルキャッチもうまくいき、コース幅が狭くなる前に何人かの選手を抜く事が出来た。しかし、コース幅が狭くなった所で、接触してコーステープに絡まり転倒。一気に最下位となってレースが始まっていった。いつもなら焦りで走りが少しバラバラになるところだが、登りに絶対の自信があったので、今回は非常に冷静さを保ったままレースを再開していく事が出来た。1周目を終えて35位。1周で30人を抜く事が出来たので、気持ちにだいぶ余裕を持って2周目以降に入れた。2周目を終えて24位、3周目を終えて19位、4周目を終えて16位、5周目を終えて13位と、確実に前を行く選手をパスしていき、6周目に入り一時10位まで順位を上げたが、疲労が足にきて、それまでのような軽い走りが出来なくなっていった。13位まで順位を落とし、我慢のしどころではあったが、無理をすると一気に足が止まり、さらに順位を落とす可能性も感じたので、ペースをやや落とし足の疲労が回復するのを待った。13位のままファイナルラップへ突入。前3人は見えるところにはいるものの、なかなか差が縮まらない。このくらいのポジションだと少しのミスが大きな差となるレベルなので、集中して走ったが、疲れで視野も狭くなり度々ミスをおかし、徐々に差ができてしまった。後ろから選手が近づいてきているのはわかっていたので、なんとしてもこのポジションだけはキープ出来るよう、最後の力を振り絞った。そして、J1での自己最高位である13位でフィニッシュ。

今シーズン前半は自分の調子とは裏腹に結果が全く出ず、サポートしていただいているメーカーには申し訳ない気持ちでいっぱいだったが、ラスト2戦である程度の結果を残す事が出来、正直ほっとしている。もちろん表彰台に上がったわけではないので満足はしていないが、来シーズンに繋がる走りをラスト2試合で出来た事は良かったと思っている。まだまだ下りやシングルトラックのスキルは足りていないが、登りはトップレベルにある事がわかったので、来シーズンはもっとスキルアップを図り、常に表彰台を争えるレベルまでもっていきたいと思う。

今シーズンも、素人同然の自分をサポートしていただいた、MERIDA、IRC タイヤ、HOLMENKOL、には感謝の一言に尽きる。

そして、応援していただいた全ての方、ご声援ありがとうございました。

2月のソチオリンピックでのメダル獲得に向けて、全力で頑張ります。

